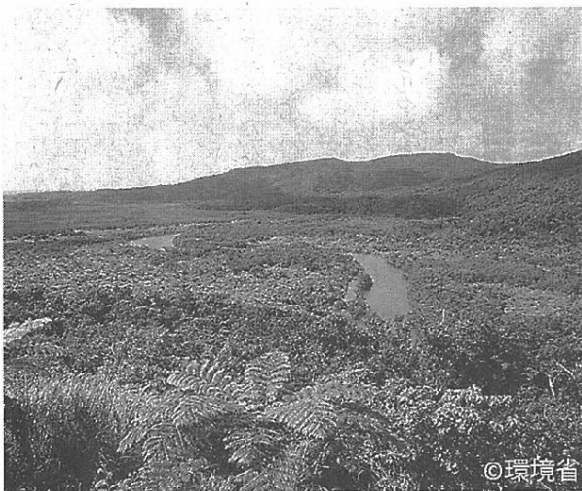


新型コロナウイルス感染症の流行が世界中で多くの人々の生活に影響を及ぼしている中、観光が主要産業の沖縄においては、そのダメージが特に大きい。過去最高の観光客数を更新し続け、街はにぎわいに満ち、県全体が活気と活力にあふれていた感染症流行前との落差はなんとも形容し難い。

### 登録決定の朗報

観光県へ観光客が来ないのだから、よい話題を探すのもなかなか苦労するのだが、そのような最中、沖縄島北部と西表島の2つの地域が、鹿児島県の奄美大島、徳之島と共に世界自然遺産登録決定という朗報が舞い込んできた。



©環境省

西表島仲間川のマングローブ林。観光誘致と自然保護の両立が求められる。(画像の出典：環境省ホームページ)



©環境省

飛べない鳥で有名なヤンバルクイナ。今回の世界自然遺産登録が決定したエリアには希少動物が多く生息する。(画像の出典：環境省ホームページ)

# 豊かな自然を後世に

世界自然遺産登録が決定した沖縄島北部・西表島

## 一般財団法人日本不動産研究所 ニューノーマル最前線

### 不動産の“変”と“不変”

#### 第20回 沖縄県

県民、特に観光に携わる人にとっては久しぶりに笑顔とされるニュースであった。

感染症流行の影響もあって、最近の観光客は、人混みとは無縁で、自然豊か、家族でゆったり過ごすことのできる施設を志向している。せっかくの旅行だからと、多くの観光スポットを見て回るのも楽しみ方の一つだが、感染リスクをできるだけ避けつつ、慌ただしい環境から離れて、海や自然と共に過ごし、心身

#### 環境負荷、ロードキルの問題も

ただ一方で、はやる気持ちを抑えるかのように、世界に認められた沖縄の自然に対して、オーバーツーリズムによる環境負荷を懸念する声等も上がっている。飛べない鳥で有名なヤンバルクイナや西表

わけた。「世界自然遺産登録が観光客誘致の契機になるのでは」と期待の声が上がるのも当然といえば当然なのである。

島固有種のイリオモテヤマネコ等、珍しい動物が生息する地域が今回の登録エリアに含まれているが、これらの希少動物のロードキル(交通事故被害)等も近年では大きな問題の一つになっている。問題提起自体は、世界自然遺産の登録決定前、そして感染症流行前から行われていたが、多くの観光客が来沖していた頃は明るい将来のほうに目を奪われがちだったように思う。

#### 大切なものを見つめ直す機会

沖縄コンベンションビューローの地下芳郎会長は「文化と自然を守り育てることが、次の世代に向けての責任ある観光につながる」と話す。観光客誘致と自然保護、この2つをどう折り合いをつけていくのが重要なのである。

沖縄島北部および西表島の自然は、絶滅危惧種を含め極めて多くの種が生息・生育している日本にとってかけがえない場所である。新型コロナウイルス感染症の流行は、沖縄にとつて大きな禍にほかならないが、現在の状況は後世へ残すべき大切なものが何なのかを見つめ直す機会となっている。

(那覇支所/不動産鑑定士・関根俊雄)